

令和 4 年度
事務事業評価シート
中央公民館
(図 書 館)
歴史民俗資料館

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

野辺地町教育委員会

目 次

1 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	
（ 1 ） みんなの教室（中央公民館）	67
（ 2 ） 野辺地町文化祭（中央公民館）	68
（ 3 ） 二十歳を祝う会（旧：成人式）（中央公民館）	69
（ 4 ） 各世代に対応した図書館事業の実施（図書館）	70
（ 5 ） 各種広報活動の充実（図書館）	71
2 次世代を担う青少年の育成	
（ 1 ） 文化少年団活動（中央公民館）	72
3 地域を支える人材の育成	
（ 1 ） 図書館サークル・おはなしボランティアの育成（図書館）	73
4 学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	
（ 1 ） 親子ふれあい読書「家読」の奨励（図書館）	74
（ 2 ） 学校等と連携協力した読書活動の推進（図書館）	75
5 社会教育推進のための基盤整備	
（ 1 ） 中央公民館施設の整備（中央公民館）	76
（ 2 ） 図書館施設の整備（図書館）	77
6 文化財の保護・保存	
（ 1 ） 県史跡「藩境塚」「野辺地戦争死者の墓所」ほか町内史跡管理（歴史民俗資料館）	78
（ 2 ） 旧野村家住宅離れ（行在所）の公開と維持管理（歴史民俗資料館）	79
（ 3 ） 文化財調査事業（歴史民俗資料館）	80
（ 4 ） 埋蔵文化財発掘調査事業（新規）（歴史民俗資料館）	81
7 文化財の整備と活用	
（ 1 ） 文化財活用事業の実施（歴史民俗資料館）	82
8 郷土の歴史・文化・芸術の保存及び継承	
（ 1 ） 民俗芸能の保存と継承（歴史民俗資料館）	83
9 資料館施設の整備充実	
（ 1 ） 特別展・各種講習会等の普及事業の開催（歴史民俗資料館）	84
（ 2 ） 資料のデータベース作成・整備事業（歴史民俗資料館）	85
（ 3 ） 館内環境整備事業（歴史民俗資料館）	86

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	中央公民館
事務事業名	みんなの教室	担当者名	野坂 洸太

事業の目的・内容	町民の学習意欲に応えるため、魅力ある教室を開設し町民のふれあいと趣味の高揚を図るとともに生涯学習の一環として実施する。 収入 1,101,930円 支出 906,940円			
事業の対象	一般			
事業費	年 度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金 額	961 千円	1,102 千円	706 千円

事業の実績・成果等 (数値)	受講生数	261人	教室	11団体	サークル	13団体
	講師謝金（振込手数料含）	856,940円				
	文化祭協力金	50,000円				
	事務費（振込手数料除く）	0円				
	備品購入費	0円				
	予備費	0円				
	事業経費合計	906,940円				

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	成果：令和4年度は、徐々にコロナ対策緩和により活動を再開・維持できるよう取り組みがなされた。また今後の活動の在り方への見直しを図るため、前向きに検討できた。令和6年度から新体制で事業を行えるよう、段階的に準備できている。 課題：高齢化により参加者が固定化傾向にあり、新たな参加者がなかなか増えない。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和3年度の評価意見)

- ・受講生261人の中に男性が9名のみなので、参加したくなるように広報することができたら良いと思う。
- ・PRの仕方をさらに工夫して取り組んでほしい。
- ・コロナ禍でも実施できたことは良かったと思います。
- ・毎年同じ課題が繰り返されているようなので、ここで手を打って参加者問題を解決してほしい。

評価委員意見(令和4年度)

- ・町民にとって意義ある事業なので、ぜひ継続してほしい。
- ・新規参加者がなかなか増えないという問題があるが、学習意欲がある町民へ本事業を推進できていると思う。
- ・考察課題において新体制で事業を行えるように段階的に準備ができているとのことなので、今後の活動に期待している。
- ・魅力ある教室のPRをしてほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	中央公民館
事務事業名	野辺地町文化祭	担当者名	野坂 洸太

事業の目的・内容	文化祭実行委員会を組織して開催し、芸能部門と展示部門で、日頃の練習成果や学習作品など発表。			
事業の対象	文化振興協議会・みんなの教室・一般			
事業費	年 度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金 額	0 千円	63 千円	195 千円

事業の実績・成果等（数値）	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、実施することができた。 緩和されたといっても、自主的に自粛する団体もあったため、規模は例年より縮小されていた。 また、数年間実施していない間に、活動自体を行っていない団体が増えた。			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	令和4年度の文化祭は、町民の期待に応え実施できた。 コロナ緩和から間もないため、規模としては例年より縮小されていた。今後については、状況に応じながら徐々に例年通りに戻していく。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：令和3年度の評価意見）

・コロナ禍で2年連続の中止となり評価はできないけれど、発表の場はなくてもそれぞれの団体で活動しているので、今後も継続してほしい。 ・コロナ禍での発表や、展示のより良い在り方を検討していく必要を感じる。 ・コロナ禍での中止は残念ですが、その影響で参加団体が減少する可能性があるのはもっと残念。 ・コロナ禍での中止はやむを得ない判断だと思う。
--

評価委員意見（令和4年度）

・コロナに気をつけながら参加者が増えるように、安心感のある工夫をしてほしい。 ・日頃から文化活動を行っている方の発表の場がコロナ対応を緩和し実施されたので良かった。活動を休止していた団体も今後参加されると嬉しい。 ・昨年の文化祭時に担当者が不在だったため大変だったと聞いている。今後はそのようなことがないようにしてほしい。 ・コロナ禍であっても実施することができて良かった。 ・コロナでの活動自粛中に活動を断念する団体もあったとのことで残念である。
--

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	中央公民館
事務事業名	二十歳を祝う会（旧：成人式）	担当者名	野坂 洸太

事業の目的・内容	令和4年度中に20歳に達する新成人の門出を祝うため、二十歳を祝う会（旧：成人式）を開催する。			
事業の対象	平成14年4月2日～平成15年4月1日生まれの成人			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	454 千円	518 千円	694 千円

事業の実績・成果等（数値）	令和5年1月8日 令和5年二十歳を祝う会の実施 新成人77名			
	記念品	180,000円	クララグッズ一式	
	消耗品費	180,728円	コロナキット160,000円、壇上花10,000円	
	印刷製本費	148,000円	プログラム86,240円、記念写真73,260円	
	郵便料	8,400円		
	合計	517,128円		

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	令和5年二十歳を祝う会は、名称が変更になってから初めての実施だった。昨年はコロナ感染拡大防止対策として野辺地中学校での実施であったが、適切な感染症対策等を講じ、公民館で実施できた。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	A	B	B	B	B

評価委員意見（参考：令和3年度の評価意見）

・野辺地中学校での「二十歳を祝う会」を今後も続けて、未来ある子どもたちと共に時間を過ごせることを望む。コロナ対策を気を緩めることなく、成人になった一人一人にも求める必要がある。

・町全体で祝っている雰囲気大切にしながら継続してほしい。

・コロナ禍でも工夫しながら事業を実施できているので良かったと思います。

・時代的に子どもだけの行事でなく、家族の大切な一つの行事となりつつあるので、そこへの配慮もお願いしたい。

評価委員意見（令和4年度）

・公民館での継続を希望する。

・コロナ対策を講じながら実施したので、参加者も安心して会を楽しめたと思う。これから少子化が進み対象者も確実に減っていくので、寂しい祝う会にならないように工夫も必要になってくると思う。

・コロナ禍で実施ができたことは嬉しく思う。準備の中で工夫もしながら当日を迎えられて良かった。

・未来ある若者たちの晴れの日なので、今後も継続してほしい。

・子どもたちにとって大切な節目を町でお祝いしてくれることはとても嬉しいことであり、町民であることを認識する日であると思うので、更に心に残るものになるような工夫をして続けていただきたい。

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	図書館
事務事業名	各世代に対応した図書館事業の実施	担当者名	吉田 真希子

事業の目的・内容	生涯学習施設の拠点として、0歳から高齢者までを対象とした各種事業を実施し、趣味や学習の場を提供するとともに、読書の推進と文化の振興を目的に実施する。			
事業の対象	町民（乳幼児、小学生、中学生、一般）			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	38 千円	58 千円	79 千円

事業の実績・成果等（数値）	【乳幼児】ヨチヨチおはなし会（6回・親子9組延べ18名） 幼稚園出前おはなし会（1回・38名） 【小学生】おはなし工房（11回・延べ52名）、 第13回のへじふるさとカルタ大会（1回・12名） 出前おはなし会in児童館（1回・59名） 【乳幼児・小学生】ドキドキおはなし工房（1回・3名） 【乳幼児～中学生】第62回読書マラソン（1回・100名） 【全年齢】読書 d e スタンプラリー（2回・延べ86名）、 本の展示（通年）、 古雑誌等無料譲渡会（11日間・延べ96名、347点） 【ミニギャラリー】杉山牧人氏「静物画展」（7/31～9/29展示） 季節の壁面工作（ロビーにて随時展示）			
---------------	---	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない	
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	・児童館を会場とした出前おはなし会では、子ども達に読書の楽しさや読書への興味や関心を高めることができた。子どもにとって年齢の近い高・大学生を読み手とし開催し子ども達に好評であった。若年層や男性による読み聞かせを行い、将来的な読み手の育成に努めることができた。 ・子どもたちへの図書館利用や読書の動機付けとして行っている記念品が貰える行事への参加は増加または同程度であるが、子どもの利用が全体的に減少していることから、年間を通した利用に結びついていないことが考えられる。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	A	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和3年度の評価意見)

・図書館の活動の更なる周知・広報を望む。
・「読書離れ」への対応は、他の先進市町村の取組みを参考にしてはどうか。
・新型コロナウイルス感染症対策をしながら実施できている事業とできていない事業があるようなので大変だと思いますが、計画した全ての事業ができるように更に工夫してほしいと思います。
・行事としては継続してほしい。職員不足というのは仕方ないかもしれないが、それを言い訳にはしてほしい。

評価委員意見(令和4年度)

・工夫された取組なので、参加者が増えるようにもっとPRをしてほしい。
・本を手にとっての読書文化は絶対に必要だと思う。幼児からそのような事に関心を持っていけるように進めている本事業はとても大切だと思う。
・各世代への図書に関するPRを今後も継続してほしい。
・一冊の本との出会いを通じて人生が変わるかもしれないので、いろいろなアイデアを出してほしい。
・子どもの利用が全体的に減っているとのことで、本を一番必要とする年代であると思うので、そこに焦点を当てた活動を更に期待する。

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	図書館
事務事業名	各種広報活動の充実	担当者名	吉田 真希子

事業の目的・内容	各世代に対応した細やかな広報活動を行い、図書館事業や読書活動を推進する。			
事業の対象	町民（乳幼児の保護者、小学生、中学生、一般）			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	70 千円	70 千円	260 千円

事業の実績・成果等（数値）	○世代別図書館だよりの発行。 ・小学生対象：図書館だより「わくわく」 2回・各460部 ・中学生対象：図書館通信「ティーンズ」 1回・260部 ○ホームページ ・新着図書の紹介、蔵書検索、休館日のお知らせを掲載。 ○ツイッター ツイッター数：1,410ツイート、フォロワー数：903（R5.3.28現在） ○その他 町の広報紙への行事等の掲載。ブックスタート事業での「図書館利用案内」および「ヨチヨチおはなし会」の案内を配布。			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
☐ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☒ 達成できてない	
自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	・図書館システム更新事業によりホームページをリニューアルした。蔵書検索のほかに資料の在架状況の確認や、1ヶ月間の貸出ランキングを表示できるようになった。 ・学校の長期休業期間や読書週間に合わせ、世代毎に図書館だよりを発行しているが、発行時期が重なり配布がギリギリになってしまう。 ・世代毎の図書館だよりの発行を予定しているが、幼児とその保護者向け（年2回）、町民を対象とした図書館だより（年1回）の発行ができていない。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		C	B	C	C	C	C

評価委員意見(参考:令和3年度の評価意見)

・図書館の働きは、工夫するともっと広く活動ができるのではないかと思います。 ・図書館だよりの紙媒体での発行・配布にはそれなりの予算が必要なため、小・中学生にはＩＣＴ事業で利用している端末を利用してはどうか。

評価委員意見(令和4年度)

・もっとＩＣＴを活用してほしい。 ・広報の内容が読書文化への入り口となるような、読書人口を増やせるような広報活動になることを期待する。 ・人手が足りないのか時間がなく忙しいのか分からないが、積極的に進めてほしい。 ・頑張ろうという姿勢は伺えるが、毎年同じことを言い訳になかなか進んでいないように見える。

事務事業評価シート

施 策 名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	中央公民館
事務事業名	文化少年団活動	担当者名	野坂 洸太

事業の目的・内容	学校教育活動以外において、青少年に文化活動を図り、青少年の健全育成を図る。			
事業の対象	小学生及び中学生			
事業費	年 度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金 額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症緩和となったが、講師の希望により自粛し中止 令和5年度については、各教室の講師の体調不良等により中止。 また他に講師を務めれる人材がいない			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☒ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☐ おおむねできている	☒ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☒ 達成できてない
自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	講師の希望により、令和4年度文化少年団は中止とした。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☒ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		C	C	C	C	C	B

評価委員意見（参考：令和3年度の評価意見）

・ 青少年の育成のため、今後も継続を望む。コロナの流行で中止になっているのは本当に残念。 ・ これまでのことをリセットし、コロナ禍でも対応可能な活動について検討していく必要を感じる。 ・ コロナ禍での中止は残念です。今後再開する時にブランクが影響すると思いますが、今後も継続してほしいです。

評価委員意見（令和4年度）

・ 改めて事業の在り方を検討してほしい。 ・ 講師の確保ができておらず実施できないように見受けられるので残念。数人であっても活動したい子どもがいるのであれば継続してほしい。 ・ 新しいアイデアやチャレンジ、工夫が必要だと思う。 ・ 講師の高齢化により活動が中止となったということであるが、新しい人材を確保する努力をしてこの活動を始めてもらいたい。たとえ小さな活動でもそこに居場所を見つける子どももいると思う。

事務事業評価シート

施 策 名	地域を支える人材の育成	担当課名	図書館
事務事業名	図書館サークル・おはなしボランティアの育成	担当者名	吉田 真希子

事業の目的・内容	読書の楽しさや素晴らしさを伝えるおはなしボランティアやサークルを育成し、図書館との協働による読書の推進を図る。			
事業の対象	町民			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	10 千円	20 千円	10 千円

事業の実績・成果等 (数値)	○ 朗読の会「秋桜」(H7.5.18発足、会員数8名) 活動内容：定例会(月1回)、朗読のつどい(年1回)等12回、延べ人数：75名 ○ おはなしサークル「虹色の会」(H8.6.27発足、会員数10名) 活動内容：定例会(月1回)、学校への読み聞かせ訪問、図書館行事「ドキドキおはなし会(年1回)」への協力等29回、延べ人数：55名			
-------------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない	
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・小学校からの要望により「朝の読み聞かせ」訪問を実施し、子ども達に好評だった。 ・無観客で行っている「朗読のつどい」は会員の意欲向上、やりがいになっている。 ・会員の年齢が高くなり、老化により活動内容の幅が狭くなりつつある。読み聞かせする際に文字が見えにくい。体の不具合、体力を要とする人形劇など上演が難しいものもできている。若い人の加入や新しい読書サークルの育成も必要と考えられる。 ・児童館で行った「出前おはなし会」を見学した会員は、意欲の向上に繋がった推察。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	A	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和3年度の評価意見)

・読み聞かせをされるボランティアの勉強の場(研修等)があればスキルアップにつながると思う。 ・近隣市町村のボランティアサークル等とのタイアップを検討してはどうか。 ・コロナ禍でも一定の活動はできているので良かった。今後も工夫しながら継続してほしい。 ・高齢化がそんなに悪いこととは思えないのですが、やはり長く続けていくとしたら若い方の加入が必要な場合もあるのかもしれませんが、今の体制でも頑張って続けてほしいです。

評価委員意見(令和4年度)

・学校との更なるタイアップも検討してほしい。 ・本事業は子どもたちに読み聞かせるだけでなく、読み手になりたいと関心を持つ子どももいると思う。そのようなことが子どもたちの将来の仕事に繋がることもある。 ・育成のためのプログラムをぜひ考えて実施してほしい。 ・発表や活動の場も考えてPRにも繋げてほしい。 ・おはなしサークルやボランティアの活動は子どもたちに大変好評とのことなので、長年活動をされている皆様もとても誇らしいと思う。これから息の長い活動をお願いしたい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	図書館
事務事業名	親子ふれあい読書「家読」の奨励	担当者名	吉田 真希子

事業の目的 ・内容	肉声による親子ふれあい読書を推進するために実施。 ・健康づくり課所管「乳幼児健診」の場を借りブックスタート（6ヶ月児対象）とブックスタートプラス（1歳6ヶ月児対象）を実施。ブックスタートでは、絵本の読み聞かせ、ベビーマッサージ、スタートバック（絵本、利用案内、家読CD等）を贈呈し、いつでも本を読んであげられるよう読書環境づくりに努める。 ・健康づくり課への妊娠届出時に県教育委員会発行「絵本でゆたかな親子の時間」（冊子）を配布し、赤ちゃん誕生前からの保護者の読書啓発に努める。 ・ヨチヨチおはなし会の開催（再掲）（3歳未満児対象）			
事業の対象	乳幼児とその保護者			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	10 千円	10 千円	10 千円

事業の実績 ・成果等 （数値）	・ブックスタート事業 11回（親子36組、72名） ・ブックスタートプラス 4回（親子31組、52名） ・ヨチヨチおはなし会 6回（親子9組、延べ18名）〔再掲〕 ・青森県教育委員会発行「絵本でゆたかな親子の時間」冊子の配布 41部			
-----------------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・ブックスタートで絵本の贈呈がきっかけとなり読み聞かせが行われていることから、今後も事業を継続する予定である。 ・ブックスタートバックの内容を更新する際には、あまり活用されていないCDの配布を見直す。 ・出生数や日常的に家庭で子育てしている保護者の減少、子育て支援センターの増加などにより、月1回開催しているヨチヨチおはなし会の参加者が少数組となっている。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：令和3年度の評価意見）

・少しでも親子の読み聞かせが増加する活動を続けてほしい。 ・ブックスタート関連事業は重要である。 ・きっかけづくりになっているので、事業としての役割を十分果たしていると思います。今後も継続してほしいです。
--

評価委員意見（令和4年度）

・良い事業なので、ぜひ継続してほしい。 ・ブックスタート体験者のアンケートをとり、配布しているCDが活用されていないなら配布をやめて、絵本の贈呈内容を充実させてみてはどうか。 ・親が読書を通じて感動することによって心が豊かになると、自然に子どもとの「本」を中心とした家読が生まれると思う。 ・本の素晴らしさを体験できる場となるように工夫してPRしてほしい。 ・子どもの減少とともに参加者も減少しているとのことであるが、行っている事業の内容を検討し、継続していただきたい。

事務事業評価シート

施 策 名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	図書館
事務事業名	学校等と連携協力した読書活動の推進	担当者名	吉田 真希子

事業の目的・内容	図書館サークルをはじめ町の各種団体、学校、地域と連携し、読書活動の推進を図る。			
事業の対象	町民			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	10 千円	10 千円	10 千円

事業の実績・成果等 (数値)	【学校・幼稚園・保育園】 ・小学校「朝の読書」での読み聞かせ 1校 21回 (延べ154名) ・出前おはなし会 2ヶ所 (97名) ※ 再掲 ・高校インターンシップ受入 1校 (3日間・延べ6名) ・図書館見学・生活科探検の受入等 2回 (37名) ・小学校への配本 1校 (300冊) ・幼稚園・保育園への図書セット貸出 9か所 (530冊) 【その他】 ・団体貸出 7団体 (212冊) ・読書団体への支援、町内の団体が主催する読書感想文コンクールへの協力 ・青森県立図書館主催する学校支援事業への協力			
-------------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない	
自己評価	B	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・図書館サークルや関係団体と連携、協力し読書活動の推進に取り組んでいる。引き続き関係団体と協力しながら読書の推進を図っていく。 ・学校図書館との連携や協力、支援内容など検討課題。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和3年度の評価意見)

・各学校の図書館の様子を知ってほしい。そして学校への何かしらの活動をアクションしてほしい。そのことによって、学校にない本を図書館へ借りに行けるようになってほしい。 ・ICT活用のための予算も欲しいところである。 ・読書文化は重要なので、関係団体と今後も連携して継続してほしいです。 ・本離れが進んでいるというのを実感しているのであれば、興味をそそるアイデアでなんとかくい止めてほしい。本から学ぶ知識や情報はたくさんあるのでもったいない。

評価委員意見(令和4年度)

・読書文化を推奨するための取組は良いが、関係団体と協力があまりできていないように思う。 ・学校図書館への支援も検討してほしい。 ・とにかく学校へ来て、親や子どもに本との関わりが持てるような企画を一回でも行ってほしい。 ・アイデアを一つでも多く出してほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	中央公民館
事務事業名	中央公民館施設の整備	担当者名	野坂 洸太

事業の目的 ・内容	・新型コロナウイルス感染症対策 ・中央公民館環境整備			
事業の対象	施設及び設備			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	19,796 千円	4,416 千円	6,534 千円

事業の実績 ・成果等 (数値)	○主なもの 音響システム入替工事 1,579,000円 自動ドア防護柵取付工事 165,000円 非常用照明交換工事 2,672,000円			
-----------------------	--	--	--	--

事業 の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	【成果】 必要な補修工事等の環境整備ができた。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和3年度の評価意見)

・地震がきても皿が飛んでこないように、調理室の食器棚のガラスにシートを貼ってほしい。 ・必要な整備ができています。今後も計画的に進めてほしい。 ・古い改修工事等で維持していただいてありがたい。少しずつでよいので災害用に実習室に手をつけ、大きな事故の起きない改修をお願いしたい。
--

評価委員意見(令和4年度)

・社会教育事業に何かと必要な施設なので、今後も計画的に使用者や利用者に負担にならないよう補修や改修を望む。 ・何年も同じことを言っているのですが、地震が起きても皿が飛んでこないように、ガラスシートを貼ってほしい。 ・施設内は古いが掃除は行き届いていて、大分綺麗になっていると感じる。綺麗に整備されていると使う側も綺麗にしようという意欲が湧くのでとても良いことだと思う。
--

事務事業評価シート

施 策 名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	図書館
事務事業名	図書館施設の整備	担当者名	吉田 真希子

事業の目的 ・内容	・施設の修繕や環境整備等を行い、利用に供する。			
事業の対象	施設及び設備			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	4,421 千円	4,906 千円	2,956 千円

事業の実績 ・成果等 (数値)	○主なもの 【改修・更新・経年劣化等による修繕】 ・ノートPC修理 49,500円 ・ボイラー室外部ドア修繕 259,358円 ・ボイラー部品交換 36,300円 ・外部ポーチ天井修繕 308,000円 ・2階廊下ソフト巾木取替修繕 90,640円 ・図書館システム更新業務 2,929,800円 ・カーペット貼り替え工事 767,800円 ・会議用テーブル等購入 440,000円 ・ネットランチャー購入 24,750円			
-----------------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・修繕や工事等を実施し、利用者の安全性や衛生面の向上を図ることができた。 ・図書館システムの更新では、公共図書館用クラウドシステムを導入することができ、Web上でのサービスの提供や拡充等を可能と考えられる。 ・新図書館システムで移行した書誌データの修正や蔵書点検の際に不明図書となった資料の確認、操作方法、機能等の知識、技術の向上が課題。		
事業の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和3年度の評価意見)

・図書館の利用者が使いやすくなり、喜ばれていることは良いと思う。今後も限られた予算の中で修繕してほしい。 ・施設の老朽化で整備箇所が増加しているとのことですが、今後も計画的に進めてほしいです。

評価委員意見(令和4年度)

・システム更新の成果をもっと活かした運営をお願いしたい。 ・社会教育事業に何かと必要な施設なので、今後も計画的に使用者や利用者に負担にならないよう補修や改修を望む。 ・予算がない中でいろいろ工夫して整備していると思う。

事務事業評価シート

施 策 名	文化財の保護・保存	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	県史跡「藩境塚」「野辺地戦争戦死者の墓所」ほか町内史跡管理	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	・県史跡「藩境塚」「野辺地戦争戦死者の墓所」「一里塚」の維持管理。 ・町指定・未指定史跡の維持管理。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	521 千円	555 千円	544 千円

事業の実績・成果等 (数値)	支出	藩境塚維持管理費	535, 472円
		戦死者の墓所事業費	20, 000円
■藩境塚 開放期間：4月11日～11月30日（公衆トイレ清掃/週5日） ■野辺地戦争戦死者の墓所 開放期間：通年（花壇整備/馬門長生会） ■一里塚 開放期間：特になし（2か月に1回草刈りを実施） ■町指定・未指定史跡：修繕等なし			

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	C	成果が十分に上がっており、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	成果： 史跡の維持管理は図れており、利用者から大きな不満の声等はない。 課題： ・一里塚公有化と活用の検討。案内板等の老朽化及び記載内容の更新。 ・各史跡に設置している案内板等の記載内容の見直し並びに修繕。 ・藩境塚公衆トイレの老朽化が見られ、修繕が必要。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	B	C	B	B	B

評価委員意見(参考:令和3年度の評価意見)

・町の限られた予算の中で今後も修繕を望む。藩境塚公衆トイレの老朽化は、利用者が年間を通してどれくらいいるのか分からないが、速やかに修繕してほしいと思う。 ・しっかりと継続してほしい。 ・継続して適切に維持管理できていると思います。今後も継続してほしい。
--

評価委員意見(令和4年度)

・もっと町をあげてPRしている雰囲気してほしいと感じる。 ・藩境塚のトイレ利用が意外と多いと思うので、清掃活動に感謝します。ただ老朽化が激しいということで、一刻も早く修繕されることを願う。 ・藩境塚のトイレの開放期間中にトイレの中にパンフレット等を置いて、町の宣伝をいろいろしても良いと思う。 ・課題をしっかりと理解しているので、その改善に努めてほしい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	文化財の保護・保存	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	旧野村家住宅離れ（行在所）の公開と維持管理	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	国登録有形文化財「旧野村家住宅離れ」の公開と維持管理。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	656 千円	540 千円	1,713 千円

事業の実績・成果等 (数値)	公開期間：4月1日～11月30日		
	支出	行在所維持管理費	540,604円
	施設の公開、通常の維持管理、池掃除のほか、庭園内の樹木と桜の剪定を実施。 文化財防火デーには消防訓練を実施した。		
	見学者（記帳者）数：561人（うち町外251人） ※R3記帳者：590人（うち町外217名）		

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
	自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
	評価説明及び考察、課題	成果：町内外見学者が増え、郷土史への関心を高める施設となっている。 課題： ・ 通常は無人の施設なので防災・防犯上の課題がある。 ・ 庁舎建設に伴う駐車スペース確保と、利用者が利用できるトイレの確保。 ・ 計画的な改修を行い保存を図るとともに、蔵の活用について検討が必要。	
	事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	C	B	B	B	B

評価委員意見（参考：令和3年度の評価意見）

・町の宝物と言ってもよいと思う行在所が町外の方々にたくさん見学されていて嬉しく思う。時々イベントもあり、今後の発展が楽しみでもある。これからは何が最善なのかを考えながら色々進めていってほしい。
・町外へのPRについては、工夫の余地があると思う。
・教職員ふるさと研修等での活用もされ、良いと思います。今後も継続して管理してほしい。
・コロナにより若干の見学人数は減っているが、公開をこれから先も継続してほしい。直接触れあうことのできる文化財でとても貴重である。

評価委員意見（令和4年度）

・もっと町をあげてPRしている雰囲気してほしいと感じる。
・無人公開が基本なので、汚損させられないか心配。注意書き看板の設置や定期的に人がパトロールすることが必要と思う。
・今後は蔵の活用等についても話し合っていく必要があると思う。
・全国的にも野辺地の地名が知られるようになる工夫がもっとあれば良いと思う。
・行在所を見に来る方のためにも、誰か説明してくれる方がいれば歴史を深く知ることができて良いのではないかなと思う。また、来た人は良ければ周りの人にアナウンスしてくれるので、更に人が来ることに繋がる。

事務事業評価シート

施 策 名	文化財の保護・保存	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	文化財調査事業	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	町内の指定・未指定文化財の保護と活用を図るために、文化財調査を行う。 また、調査文化財は保存と継承を図るため、文化財指定（町・県等）を進める。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	878 千円	858 千円	302 千円

事業の実績・成果等（数値）	①祇園囃子・神楽の保存・継承に係る調査 弘前大学の調査を引き継ぎ、野辺地の山車行事に関する文化財調査を実施予定だったが、祭りが中止のため未実施となった。 ②資料館収蔵資料整備業務 弘前大学人文社会科学部民俗学研究室・博物館研究室へ委託し、収蔵資料（民俗）を活用するための調査・展示リニューアルを実施。展示はR5.3.26に完了した。 調査者：弘前大学人文社会科学部民俗学研究室 指導教授等2名+生徒21名			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	成果： 弘前大学との調査により、民俗資料展示のリニューアルができた。 課題： ・リニューアル後の展示に関するPR活動や活用方法を検討したい。 ・弘前大学との関係性継続を図る。 ・学校等への民俗資料活用に関する働きかけを行いたい。（貸出バック作成等）		
事業の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	A	B	B	B	B

評価委員意見（参考：令和3年度の評価意見）

・町の文化財指定（町・県等）を進めていただき本当にありがとうございます。更に保存と継承を継続することを望みます。 ・事業の成果をもっとたくさんの町民に認識してもらえる機会を増やしたい。 ・今後も継続して野辺地町の文化財の保護をお願いしたい。
--

評価委員意見（令和4年度）

・イベント等を開催し、弘前大学の学生にも参加してもらい広く町民に紹介したい。 ・弘前大学とのタイアップは文化財調査や保護に寄与しているので、今後も良い関係を築いてほしい。リニューアル後の施設を学校の活動で役立ててほしい。 ・以前より整備されて大変見やすくなった展示室に、訪れる人が増加して良かったと思う。
--

事務事業評価シート

施 策 名	文化財の保護・保存	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	埋蔵文化財発掘調査事業(新規)	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	文化財保護を図るため、開発行為が予定されている埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行う。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	0 千円	368 千円	673 千円

事業の実績・成果等(数値)	①二十平(1)遺跡本発掘調査(2ヵ年計画) 個人の開発行為(道路築造)に伴う本発掘調査を実施。令和4年度に発掘調査を行い令和5年度に発掘調査報告書を発行予定。 ②槻ノ木(1)・(5)遺跡試掘調査 東北電力の送電線鉄塔建替え工事に伴う試掘調査を実施。 試掘結果、令和5年度に建替え敷地内の発掘調査を行うこととなった。			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	成果： 県文化財保護課等の指導を受けながら発掘調査を行うことができた。 課題： ・町内に発掘現場監督を行える人材がいらないため、人材の確保が急務。 ・埋蔵文化財包蔵地内での無届開発も見受けられることから、届出に関する周知が必要と思われる。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		C	B	C	B	C	—

評価委員意見(参考:令和3年度の評価意見)

評価委員意見(令和4年度)

- ・人手を増やすことも検討してほしい。
- ・縄文くららと繋がる成果も期待する。
- ・今後の経過を見守りたいと思う。

事務事業評価シート

施 策 名	文化財の整備と活用	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	文化財活用事業の実施	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	文化財の周知・活用と活用人財を育成するため、下記事業を実施した。 ①縄文PR・活用事業の開催 ②日本遺産3港連携事業（日本遺産認知度向上・情報発信・人財育成事業）の実施 ③旧野村家住宅離れ（行在所）夜間特別公開の実施 ④北前文化継承事業（日本遺産のPRと活用人財育成）の実施			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度予算
	金額	2,188 千円	2,211 千円	1,317 千円

事業の実績・成果等（数値）	1. 縄文PR・活用事業 ※国指定重要文化財・土偶をPRする事業 野中美術部・デザイナーが縄文くらのグッズPOPを作成し町内外でPR活動を実施。 2. 日本遺産3港連携事業 鯉ヶ沢・深浦町教委と連携し、スタンプラリー・パネル展（弘前市）・まちあるきを実施。また、地域の歴史を知る校外学習を町内3小学校で実施（参加児童/99名）。 3. 旧野村家住宅離れ夜間特別開放 来場者数/92名（R3/130名） 4. 北前文化継承事業 郷土料理教室・鯉ヶ沢町見学会・野高ふるさと学習実施。			
---------------	--	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	成果： 他町や学校、団体と連携し、広く文化財の周知・活用を図ることが出来た。 課題： ・継続して事業を実施し、町の歴史に関する認知度を向上させていきたい。 ・校外学習やまちあるき等で学んだ知識を活用できる場づくりを検討。 ・事業効果や成果が短期的には見えない為、評価が難しい。 ・若い世代に向けた情報発信方法の検討と取組を検討したい。		
事業の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		A	A	B	B	B	B

評価委員意見（参考：令和3年度の評価意見）

・たくさんの事業を実施していて大変良いと思う。今後も継続を希望する。色々なアイデアが出て、更なる活用が期待されていくと思う。縄文くらの今後が楽しみである。
・小学校対象の校外学習はぜひ継続してほしい。
・町外と事業で連携して実施したり、学校の学習に取り入れたりと非常に良いと思います。今後も継続してほしい。
・様々発信しているので、発信し続けてほしい。

評価委員意見（令和4年度）

・学校としては大変有り難いので継続をお願いしたい。
・事業の目的に即した活動ができている。準備や他町との連携は大変だと思うが、継続してほしい。
・ふるさとを知ることによって地域を大切に思う心が育まれていくと思うので、今後も継続してほしい。
・緩やかではあるが、くらの・北前文化継承事業について周知されてきている。これから先も頑張っていただいて、町民が誰でも知っているくらの・行在所・北前文化を目指していただきたい。

事務事業評価シート

施 策 名	郷土の歴史・文化・芸術の保存及び継承	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	民俗芸能の保存と継承	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	・「祇園囃子」「ささ踊り」「権現舞」「沖揚げ音頭」などの民俗芸能の後継者育成支援や発表機会の充実に努める。 ・映像や音声による民俗芸能の保存に努める。			
事業の対象	一般（民俗芸能保存団体）			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	民俗芸能保存団体の現状調査を引き続き実施。 新型コロナウイルス感染症の影響により令和4年度も十分な調査ができなかったが、熊野神社権現舞の調査とイベントでの披露の場を設けた。			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☒ 達成できてない
自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	成果： 調査文化財の概要を把握することができた。 課題： ・各団体後継者難に苦労しているため、後継者育成方法が課題。 ・コロナ禍を経て、民俗芸能の保存と継承が更に課題となっている。 ・芸能の保存、団体支援方法等を検討する必要がある。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		C	C	C	C	B	C

評価委員意見（参考：令和3年度の評価意見）

・野辺地町には素晴らしい民俗芸能があるので、何とか工夫して周知と宣伝・広報し、まず町民が愛着を持ち、発信していけたらと願っている。 ・各団体との連携を更に強化（金銭的援助等も含む）する必要がある。 ・民俗芸能者と協力し、DVD記録の作成等活動してほしい。 ・民俗芸能を知っている人がいるうちに早急に進めてほしい。口頭でなく文章等目に見える形で残っていれば、誰かが継承をしていってくれるはずである。

評価委員意見（令和4年度）

・予算が必要である。改めてまずは金銭的な支援から始めてはどうか。 ・民俗芸能者の体が動いたり病に倒れないうちに、映像や音声による記録保存が急務だと思う。また学校での教育資料となるように編集してほしい。 ・野辺地町に現在伝えられ残っている民俗芸能の保存と継承は、各団体の高齢化もあり、またコロナ禍もあつたりとなかなか残していくのにはそれぞれのPRも大切だが、知恵をしぼってなんとか後世に残してほしい。 ・難しい事業であると思うが誰かが残さなければならない大切な文化なので、大変だとは思いますが継続して行っていただきたい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	資料館施設の整備充実	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	特別展・各種講習会等の普及事業の開催	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	郷土の歴史や文化財について理解を深める講座を開催し、郷土を愛する人材の育成を図る。 ふるさと学習やボランティアガイドの実施、企画展開催、関係団体と連携し、野辺地町の歴史に関する普及事業を実施する。 また、資料貸出や資料調査対応、歴史に関する出前講座等の対応をする。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	6 千円	23 千円	25 千円

事業の実績・成果等（数値）	1. 日本遺産関連パネル展（弘前市）の開催 2. 各種講座の開催 ①ふるさと歴史講座 ※新型コロナウイルス感染症のため中止 ②古文書講座（入門編：9回/述べ参加者数124名） 3. ふるさと検定「のへじ検定」の開催 申込者：24名（初級/10名、中級/7名、上級/7名） 合格者：初級8名、中級7名、上級6名 小学生：88名（合格51名）、中学生：70名（合格27名）、高校：30名（合格17名）			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	成果： 学校と継続した連携で実施でき、若年層への教育を更に図ることができた。 課題： ・事業の効果測定が難しいことから、成果が見えにくい。 ・人材育成のため小中高と連携を継続し、郷土を知る学習の定着を目指す。 ・講座や検定はマンネリ化を防ぐため、切り口を変えた内容で実施を検討。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		B	A	B	B	A	B

評価委員意見(参考:令和3年度の評価意見)

・野辺地町には歴史があるので、たくさんの人に知ってもらえるチャンスだと思う。色々な事業開催の継続を希望する。 ・「のへじふるさと検定」は、もう少し合格率が上がるように難易度を下げ等のリニューアルを検討してほしい。 ・継続してほしい。
--

評価委員意見(令和4年度)

・ふるさと検定は継続してほしい。 ・ふるさと検定は良いと思う。将来歴史学者を夢見る子どもが育つと嬉しい。 ・野辺地町マイスターが一人でも多くいてほしい。 ・定期的に勉強会を開いてほしい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	資料館施設の整備充実	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	資料のデータベース作成・整備事業	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	文化財保存を図るため、歴史民俗資料館収蔵資料の整理と管理を行う。 また、収蔵資料の活用を図るため、整備・調査を行う。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等 (数値)	・収蔵資料の整理（リスト化・写真撮影）、データベース作成。			
-------------------	-------------------------------	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	成果：少しずつ資料の整理と管理が進んできている。 課題：　・遺跡発掘調査出土資料の管理や大型民具等の収蔵スペースの確保。 ・データの保存場所や閲覧できる媒体（タブレット等）の検討が課題。 ・資料受入基準について検討をしたい。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		C	C	C	B	C	B

評価委員意見(参考:令和3年度の評価意見)

・未来に残せる活動の一つなので、ぜひ今後も大変だと思うが継続を希望する。 ・適切なデータ管理について、継続してほしい。 ・更に重点化して続けていってほしい。
--

評価委員意見(令和4年度)

・エアコンの導入を検討すべきだと思う。 ・I C T環境の整備をしてほしい。 ・資料のデータベース作成といっても、将来どのような形で使用されることを望むのかビジョンを検討して活動してほしい。 ・担当者も忙しいので、どなたかの協力を得ながら資料を作成してほしい。 ・町の財産でもあるので、これからも継続してほしい。 ・課題が多く改善していくにも難しい部分も多いと思うが、できることからゆっくりで良いので継続してほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	資料館施設の整備充実	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	館内環境整備事業	担当者名	山崎 杏由

事業の目的 ・内容	施設老朽化による修繕や、利用者のニーズに答えるための館内環境整備を行う。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 3 年度決算	令和 4 年度決算	令和 5 年度予算
	金額	343 千円	124 千円	185 千円

事業の実績 ・成果等 (数値)	①新型コロナウイルス感染症対策用アクリルパネル購入	24,000円
	②館内用ストーブ購入	100,100円

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	成果：施設の適切な維持管理修繕等を行った。 課題：施設老朽化により、修繕箇所が年々増えている。 ・町の計画等を鑑みながら施設修繕を行い、環境整備を図りたい。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R3参考
		C	B	C	B	C	B

評価委員意見(参考:令和3年度の評価意見)

・建物が古いので修繕が多いと思うが、限られた予算内で工夫しながら続けてほしい。

・今後も計画的に進めてほしい。

評価委員意見(令和4年度)

・エアコンの導入を検討すべきだと思う。

・社会教育事業に何かと必要な施設なので、今後も計画的に使用者や利用者に負担にならないよう補修や改修を望む。

・限られた予算の中で計画を立てながら、今後も継続してほしい。